

日本YWCAの使命(ミッション)
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第29期会期主題
平和を実現する人々は幸いである一マタイによる福音書5章9節

- 日本YWCAビジョン2015
(1) 非核・非暴力による平和を構築する
・平和憲法をまもり、世界に広める
・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
・女性と子どもたちの権利をまもる
・パレスチナYWCAの活動を支援する
(2) 若い女性のリーダーシップを養成する

# YWCA 3

MAR. 2008

発行所 日本キリスト教女子青年会
〒102-0074
東京都千代田区九段南4-8-8
Tel. 03-3264-0661
E-mail. office-japan@ywca.or.jp
編集発行人 石井摩耶子
振替 00170-7-23723 (毎月1日発行)
定価1部 150円
年間購読料2,200円 (送料込)
www.ywca.or.jp



「南京を考える旅2007」には、日中から10代～70代までの50余名が参加。

## この1年の中国との交流

# 南京からひろしまへ



南京では毎夜、日中の参加者がグループに分かれてディスカッションを重ねた。



リニューアルされた「侵華日軍南京大虐殺遺棄同胞記念館」広場には「和平」の母子像がそびえている。

2総会期前、中国YWCAからの、「交流を再開し協働の道を探りませんか」という提案を受け、当時の会長や役員を中心に、中国を訪問したのが小さな芽であった。そして2005年、日本YWCA100周年を記念して行った「ひろしまを旅」に、中国YWCAと韓国YWCAからお招きしてワークショップをもったのが、その芽に水を注ぐことになった。

当時、小泉首相が靖国神社へ参拝し、中国・韓国と日本は歴史認識をめぐって政治レベルで大変緊張関係が続いていた。そんな中、そのワークショップでは、私たちが直接、加害・被害の歴史を学び、出会い、信頼関係を築くことが大事であることが確認された。

翌2006年夏には、全国総会を前に、中国・韓国・日本のYWCAが一堂に会する「東北アジアピースマーケット」を主催し、日本YWCAから、互いの歴史を学ぶ機会を持つことができないかと提案し、話し合った。

同年秋、全国総会のゲストスピーカーとしてお招きした金野中国YWCA総幹事代行から「南京からひろしまへ」という旅の提案があり、私たちは拍手をもってこれを受け止め、新しい世代に現場を感じとり、知り、考えてもらい、日中の平和を築

き、共に語り合うことも祈り合おうことも、食することも許されないであろう。私たちにできることは、折りつつ過去に真摯に向き合い、近隣諸国との友好的な本末のために憲法9条を守ることにある。今後も継続していい関係を築いていきたい。

一連の過程を経てこの1年の日中間の交流、そして「南京を考える旅」実現までの経緯を顧みるとき、私は中国YWCAの愛を感じずにはいられない。イエス・キリストの十字架の愛とあがなひ、とりなしがなければ、共に語り合うことも祈り合おうことも、食することも許されないであろう。私たちにできることは、折りつつ過去に真摯に向き合い、近隣諸国との友好的な本末のために憲法9条を守ることにある。今後も継続していい関係を築いていきたい。

「南京を考える旅2007」実行委員長 俣野尚子
\*2面に関連記事掲載

「南京を考える旅2007」実行委員長 俣野尚子
\*2面に関連記事掲載

「南京を考える旅2007」実行委員長 俣野尚子
\*2面に関連記事掲載

## パレスチナYWCAからの緊急行動の呼びかけ イスラエルによるガザ地区封鎖を解除させるために

ガザ地区150万人の全住民がイスラエルによる封鎖の下にあり、無差別砲撃や繰り返される違法な暗殺行為に加えて、すべての境界線の封鎖・経済制裁の強化が追い討ちを掛け、それによる燃料・食糧・医薬品などの供給の制限によって人々の生活を悲惨な状況に追いこんでいます。今や刻々と失われる危険にある人命を救うためには、速やかな介入が必要です。

パレスチナYWCAは、世界中のすべてのYWCA・国連・欧州委員会（EUの執行機関）・あらゆる国際人道・人権機関、そして広範な市民団体に、この封鎖解除に向けた支援を呼びかけます。

- パレスチナYWCAは以下のことを呼びかけます：
1. この封鎖の解除に向けて国連安全保障理事会がアクションをとることを促すように、あなたの国の政府に強く働きかけてください。
2. あなたの国の政府の代表者に、イスラエルがガザ地区で続けている戦争犯罪の中止を働きかけるよう文書や電話で呼びかけてください。
3. 包囲されている上に、子どもたちや無防備な人々も例外なく対象とするイスラエルによる殺戮と戦争犯罪の危険に曝されているガザ地区市民への支援に向けて集会を開くなど結集してください。
4. あなたの国のメディアに、この非人道的な惨事と続行する戦争犯罪の現実を明らかにするように呼びかけてください。
5. 中東で続いている衝突と人権侵害の根本的な要因について会員で学ぶ機会を持ち続けてください。
6. パレスチナに平和と正義がもたらされるように祈り続けてください。

### ガザ地区の罪のない人々の生命を救おう

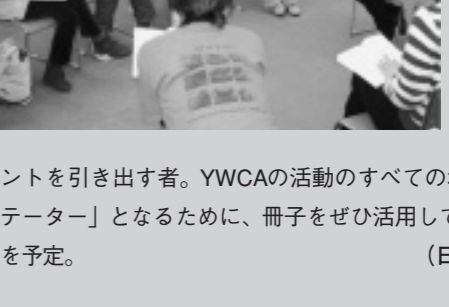


## 創設60周年 地域に根ざって

甲府YWCAは2007年12月1日に創設60周年「感謝の集い」を行いました。榎本愛子初代会長はじめ、多くの会員が山梨県立大学の卒業生というご縁で、現在中・高校生の葉茂洋子先生が会長というご縁で、同校を会場としてお借りしました。第一部は拝見賛助会員、同校オオルガ二つの聖書多佳子先生が奏楽しつつ「聖書の会 担当の田口重彦先生が「痛みを負う信仰」と題しメッセージを話して下さいました。日本YWCAのミッシェン「イエス・キリストに学び共に生きる世界を実現する」のように、弱い者・貧しい者・痛み苦しみを背負った者に寄り添い、その痛み苦しみを共に負って下さったイエス・キリストに倣う生き方を共に求められていることを教えられ、これからの甲府YWCAの歩みに示唆を与えられました。第二部は横手先生の見事なオルガン演奏。第三部茶話会では実生律子日本YWCA副会長、松木田博甲府教会牧

師、山梨英和の中宗教主任・大木正人先生、宮田喜久代広島YWCA会長よりお祝いのスピーチをいただきました。宮田会長は私共が永年原爆絵画展を開催していることへの感謝を述べられました。この絵画展がこれまで続けられた理由と目的は左記によるものです。
1 戦争の悲惨さ・被爆の恐ろしさ・その事実をまず伝える。
2 そこから平和の尊さ・人間の生命の尊さを感じ、人々が心を交わし助け合い、共に生きる世界の実現に向けて何ができるかを考える。
3 来場者が原爆絵画展開催の重要性を認識し継続して下さる。
に物心両面で応援して下さい。
この「感謝の集い」にご出席下さった甲府YWCAに寄せて下さる熱い思いとエールに応えて活動を展開していきたいと思

甲府YWCA会長 五味優子
\*60周年記念誌「どうの枝」発行
お問い合わせは甲府YWCAまで



甲府YWCAは2007年12月1日に創設60周年「感謝の集い」を行いました。榎本愛子初代会長はじめ、多くの会員が山梨県立大学の卒業生というご縁で、現在中・高校生の葉茂洋子先生が会長というご縁で、同校を会場としてお借りしました。第一部は拝見賛助会員、同校オオルガ二つの聖書多佳子先生が奏楽しつつ「聖書の会 担当の田口重彦先生が「痛みを負う信仰」と題しメッセージを話して下さいました。日本YWCAのミッシェン「イエス・キリストに学び共に生きる世界を実現する」のように、弱い者・貧しい者・痛み苦しみを背負った者に寄り添い、その痛み苦しみを共に負って下さったイエス・キリストに倣う生き方を共に求められていることを教えられ、これからの甲府YWCAの歩みに示唆を与えられました。第二部は横手先生の見事なオルガン演奏。第三部茶話会では実生律子日本YWCA副会長、松木田博甲府教会牧

- 協力者が原爆絵画展開催の重要性を認識し継続して下さる。に物心両面で応援して下さい。この「感謝の集い」にご出席下さった甲府YWCAに寄せて下さる熱い思いとエールに応えて活動を展開していきたいと思

## 女性の声がかかれる世界に

### 倉戸ミカ

そんな女男について行くからやん、アホやなあ、とタイプ事件があると思つてしまいます。そしてあつて、悪いのは女性ではなく男性だということを感じ起します。カギをかけたとしてある自転車を持ち主に黙って乗って行ったら犯罪であるように、女性がたとえ裸でいたとしても暴力をばたらいていいわけではないのです。でも、性暴発のときには、被害者に暴力の責任が負わされることがあります。被害者を傷つけ、被害者が声をあげることをできなくさせます。そして加害者は、処罰を免れます。私たちは、この連鎖を断ち切らなくてはなりません。

1月末、沖縄の高里鈴代さんほか20人の女性たちとグアムへスタディツアーに行ってきました。グアムは、日本占領時代、大宮島と名前を変えさせられ、先住民民族チャモロの人たちは強制労働にかけられました。女性たちも、日本や朝鮮半島から連れてこられた女性たちとともに日本軍の性奴隷にされました。でも、グアムには、自分が「慰安婦」にされたことをあつた女性はいません。家族にも言えず一人で苦痛を抱えたままチャモロの女性たちは亡くなるうとしていました。

グアムでは、米軍基地と女性をテーマにした公開フォーラムも開きました。そこで高里さんが言ったことは、女性は、軍隊による「安全保障」という名のもとに「安全ではない」状態におかれてきたということです。今回の米軍再編では、いまだに米国の占領下にあるグアムでも、米軍が増強されようとしています。米軍基地のある地域の女性たちは、ネットワークをつくり、米軍に立ち向かうつもりです。私たちが、彼女たちとともに女性への暴力に対して声をあげなくてはならないのではないのでしょうか。女性が沈黙させられ、その声がかかれることのないところで、人としての権利が守られるわけではないのですから。

## 次はあなたがファシリテーター すぐに使える“平和ワークショップの素” お見せします！

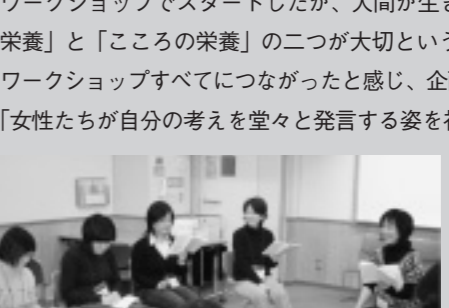


表題は、2月2日～3日、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京）で開催したワークショップ大会のキャッチフレーズである。熊本・松山・神戸・京都・名古屋・東京・日本YWCAファンレイジング委員会やビジョン2015委員

会委員の協力を得て開いた13のワークショップには全国各地から72名の参加があった。各ワークショップのファシリテーターの多くはYWCAの若手会員で、地域YWCAでの日常活動をモチーフにして、持ち前のタレントを發揮して実にみごとにワークショップを展開。理科実験・朗読・移住女性・非「核」・多文化共育・リーダーシップ・ファンレイジング・大きな絵描き・生と性・シナリオづくり...など、ワークショップの切り口はさまざまだが、一人ひとりがかけがえのない存在であることに気づくとき、そこにエンパワーが生まれる、自分を愛し他者を愛することが、平和をつくり出すチカラとなる、というメッセージが各ワークショップに込められていたのではないだろうか。これこそYWCAが提供するワークショップである。



ワークショップ大会は、すぐ脳ファシリテーター、キムリンこと金香百合さん（ホリスティック教育実践研究所）＝写真上＝による全参加者対象のワークショップでスタートしたが、人間が生きていくためには「からだの栄養」と「こころの栄養」の二つが大切という金さんのメッセージが13のワークショップすべてにつながったと感じ、企画者の一人としてうれしい。「女性たちが自分の考えを堂々と発言する姿を初めて見ました」という男性参加者の感想も飛び出した。ビジョン2015委員会では、これら13のワークショップを誰もファシリテーターとして実践できるように、その目的と進行方法をまとめた冊子を作成する。ファシリテーターとは、そこに集う一人ひとりをもつタレントを引き出す者。YWCAの活動のすべての場面で、「あなたがファシリテーター」となるために、冊子をぜひ活用していただきたい。発行は4月を予定。（日本YWCA職員 西原美香子）



- 「協力者が原爆絵画展開催の重要性を認識し継続して下さる。に物心両面で応援して下さい。この「感謝の集い」にご出席下さった甲府YWCAに寄せて下さる熱い思いとエールに応えて活動を展開していきたいと思



「救し」と聞くと何か特別なことのように思えるかもしれませんが、人間関係がある所ではどこでも、私たちはこの「救し」を日々体験しながら生きていくのではないのでしょうか？

# 中高YWCA紹介

## 横浜英和女学院中学校・高等学校

私たち横浜英和のYWCAは、中高あわせて39人で活動をしています。主に手話教室や点字教室を行います。

他には学校周辺のゴミ拾いや、月1回の老人ホーム訪問などの活動もしています。この老人ホームでは、クリスマス会を合同で行い、私たちからはハンドベルの演奏と、手作りのプレゼントとカードをお配りして、楽しい一時を共に過ごします。

夏休みには他校の中高YWCAの人たちと一緒にカンファレンスという宿泊行事に参加しています。毎年、福祉や平和に関連しているテーマについて学び、交流をもちます。

また、年に1度全校に呼びかけて開催している福祉教室では、毎年違ったテーマのもと、講師の先生のお話を聞かせていただきます。今年日本YWCAの方に来ていただいた、世界YWCAの活動について学びました。

これから中高YWCAの伝統を守りつつ、活動を続けていきたいと思っています。

横浜英和女学院  
中高YWCA部長  
須藤聡実 (高校2年)

所在地：横浜南区蒔田町124  
TEL：045・731・2862



# 07年度日本・アラブ女性交流プログラム

## 「女性と社会教育」をテーマに交流

日本・アラブ女性交流プログラムは、ヨルダンのパスマ女王の提案により96年に2国間でスタート。その後エジプト・パレスチナが加わり、現在にいたっている。「国連NGO国内婦人委員会(※註)」がその実施を外務省から委託され、加盟団体の持ち回りで派遣(秋)と受け入れ(冬)が行われている。

※国連NGO国内婦人委員会とは……国連・経済社会理事会上に諮問的地位をもつ国際団体に連なる国内10の女性団体が参加。国連総会への日本政府代表团に、毎年女性代表を送り出している。

### ■派遣

07年10月19日～27日、エジプト・パレスチナ・ヨルダンを訪問。石井摩耶子日本YWCA会長を団長に、同国内委員会の江尻美穂子委員長(東京YWCA会員)、雀部真理(大阪YWCA会員)の3名が、「女性と社会教育」に関する発題を携えて出かけた。

エジプトでは、3人の女性が学生時代に始めたという「女性と社会協会」の活動に感銘を受けた。貧困地区での識字教育から、女性への小口融資、さらには女性のためのクリニックへ。個人の「想い」がどどん力を得て輪を広げていく地道なパワー。

パレスチナでは、まず自治政府女性省副大臣(女性)を表敬。あいさつの冒頭「独立国家の樹立を望む」との言葉に、襟を正される思いがした。次に表敬したラマラ市長は、大きな市では初めてという女性市長。

ヨルダンではまず、女性の酪農品生産や縫製のプロジェクトを見学。翌日には社会開発大臣を表敬して、国家の「戦略的開発計画」を伺った。軍人出身である大臣(男性)が自らの言葉で熱意をもって女性施策を語られたのが印象的であった。

3カ国でYWCAを訪ね、初めて行ってもなぜか懐かしいYWCAの温かさに心とんだ。21世紀とともに幸せな調和のとれた地球をめざす世紀です。

### ■受け入れ

1月26日(土)～2月2日(土)、同じ3国から1人ずつの代表を迎えた。東京・大阪で公開シンポジウムと表敬訪問や交流行事を行い、途中京都では平和ミュージアムも見学した。

\*詳しくは、報告書(3月末日発行予定)をご覧ください。



07年10月パレスチナのバヤトアナンの女性センターにて



東京でのシンポジウム (08年1月27日)

# 特集

## この1年の中国との交流

1面で紹介したように、この1年、日本と中国のYWCAがお互いの理解を深め、平和な未来を築くために交流を深めてきました。



天津YWCAにて

上海にて

### 日本YWCA

#### 南京を考える旅2007

### 虐殺から70年の南京を訪ねて

70年前、日本軍が南京の街を占領した12月13日に南京の地に足を踏み入れることに緊張しながら、10代～70代までの日本からの19名は上海浦東国際空港から降り立った。しかしYWCAの旗を持って出迎えてくださった施海中国YWCA幹事の姿を見て緊張が解けた。金、耐中国YWCA総幹事代行も北京で行われている会議を2日間抜けて空港で出迎えてくださり、南京までの400km近いバスの行程を一緒してくださった。また昨夏、「ひろしまを考える旅」の参加者であった王紅西安YWCA会

長が開会礼拝のためだけに遠方にもかかわらず南京に連れられ、ほんの一時であったが旅の参加者と良縁を結び合った。その夜、南京市教育局主催で南京YMCA/YWCAが歓迎会を催してくださった。お腹も心も温まり、「南京を考える旅」が始まった。翌日、拡張のための建て替えが完了した侵華日軍南京大虐殺遭難同胞記念館を訪れた。皆が防寒具に身を包んでいる中、コートを着き、石井摩耶子日本YWCA会長が献花、俣野尚子副会長が祈りを捧げた。写真真下。中国語にも訳された祈りが

終わるまでずっとスーツ姿だったお二人を見て、真摯な気持ちで伝わってきたと中国側の参加者から漏れ聞いた。記念館はすべての展示に中国語・日本語・英語で説明が添えられていた。南京大虐殺は6週間あまり続いたこと、7歳から79歳の女性が強姦され、それは2万件におよぶという記述や被害の写真・証言の数々、折り重なった遺骨の発掘場所など衝撃的だったが、私が立ちつくんだのは、被害に遭い、亡くなったことが確認されている人々の名前が刻まれた石壁だった。同姓の

名前が並んでいるのがまっすぐ目に入った。最初に父(父親)とあり、後に女・女・女・女・女と続く。何家族も、何家族も。その最期を思い、被害者の人間であることに胃が痛み出し、後の歴史を十分受け止めたかどうか自信がない。記念館の外に出ると平和と書かれた母子の白い像。1面写真がある、開けた美しい場所があった。私たちはすでに献花した場所に参加者全員で写真撮りまじらした。未来の前で写真を撮りましょう」という祝辞。南京YMCA総幹事補佐の言葉で痛みが少し和らいだ心地がした。



たどき、両国の参加者から「お」と感嘆の声が上がった。今回のプログラムは「平和のパワーは私たちの心にある！」を実感する旅であった。「南京を考える旅2007」実行委員 勝美恵

### 横浜YWCA

#### 上海スタディツアー2007

### 21世紀目へのプランニング

やっと実現の運びとなった横浜YWCAの上海スタディツアーは「ともにつくる未来」の副題のもとに07年9月2日から7日まで行われました。横浜YWCAから7人、大坂YWCAから1人、事前学習からお世話になった大妻女子大学の石川照子先生と2人の学生、チラシを見て参加して下さった男性の総勢12人での5日間でした。構成メンバーのバランスの良さ(各年代が揃ったこと)、男性が参加し下さったこと、に加えて全員がそれぞれに大きな役割を果たし、実り多い思い出に残る交流の第一歩を踏み出すことが出来ました。

上海YWCAはYMCAの経営するホテルの中にあり、「車や」と実現の運びとなった横浜YWCAの上海スタディツアーは「ともにつくる未来」の副題のもとに07年9月2日から7日まで行われました。横浜YWCAから7人、大坂YWCAから1人、事前学習からお世話になった大妻女子大学の石川照子先生と2人の学生、チラシを見て参加して下さった男性の総勢12人での5日間でした。構成メンバーのバランスの良さ(各年代が揃ったこと)、男性が参加し下さったこと、に加えて全員がそれぞれに大きな役割を果たし、実り多い思い出に残る交流の第一歩を踏み出すことが出来ました。

対立・分断・戦争に明け暮れた20世紀に、YWCAの先輩が続けられた努力が実り始めている。宿舎のYMCAホテルではいろいろ南国の女性たちにお会いしました。現実絶望することなく大地に根ざしながら平和を地球をめざして努力する仲間を世界中に持つ幸せとともに国際協力の大切さを実感しました。今回のもう一つの収穫は学生さんたちがしっかりと歴史と向き合い平和への思いを新たにしている姿でした。100年の基盤の上立ちながら今が大切なことをしっかりと見極めながら若い世代に引き継いでいきたいです。

上海YWCAはYMCAの経営するホテルの中にあり、「車や」と実現の運びとなった横浜YWCAの上海スタディツアーは「ともにつくる未来」の副題のもとに07年9月2日から7日まで行われました。横浜YWCAから7人、大坂YWCAから1人、事前学習からお世話になった大妻女子大学の石川照子先生と2人の学生、チラシを見て参加して下さった男性の総勢12人での5日間でした。構成メンバーのバランスの良さ(各年代が揃ったこと)、男性が参加し下さったこと、に加えて全員がそれぞれに大きな役割を果たし、実り多い思い出に残る交流の第一歩を踏み出すことが出来ました。

蘇州旅行の1日以外はほとんどが学習会・見学に費やされました。テーマは重かつたけれど、平和を自指して共によりよい未来のために力をあわせていくという共通認識を深めることが出来ました。優しさや熱意を戴いた講師・通訳の先生方、準備実行して下さった方々に感謝すると共に、真摯な態度で臨んだメンバーの姿勢も上海の地にひと粒の種を蒔いたと思います。

横浜YWCA 野口和喜子